

## 8 史跡と将門伝説の里を訪ねる

## ①中野治房邸 (敷地内は非公開)

中野家は旧中里村の名主、酒造業。血闘守之助が書生として国漢を学んだ家。13代目当主治房は植物学者・理学博士・東大教授。湖北村村長。『湖北村誌』の校閲者。手賀沼の水生植物の研究も行い、その過程で現在絶滅危惧種であるガシャモクを発見する。

## ④日秀観音

本尊は平将門の守り本尊と伝えられる観世音菩薩。首曲地蔵は将門調伏を祈願した成田山不動尊を嫌い、成田に顔を背けた姿といわれる。寺子屋の筆子塔やイママキの巨木がある。

首曲地蔵

## ⑤葦不合神社(市指定文化財)

祭神は鶴嶋草葦不合尊。ここはもと葦島神社(沖田弁天)の地。1908(明治41)年に葦不合神社を移して合祀。本殿に天岩戸、八岐大蛇退治、神武東征などの見事な彫刻。イチヨウの巨木がある。

## ⑥将門の井戸

932(承平2)年、平将門がひらき軍用に供した井戸との伝承がある。『湖北村誌』に「中相馬セヶ村には七つ井戸と称して、必ず一村一個有せり」とある。七つ井戸のひとつ。日秀では石井戸と呼ぶ。

## 所要時間 徒歩2時間30分

★237Kcal消費

湖北駅(北口)→①中野治房邸→②一里塚跡→③湖北郷土資料室(湖北行政SC)※土日祝閉室→④日秀観音→⑤葦不合神社→⑥将門の井戸→⑦将門神社→⑧相馬郡衛正倉跡→⑨諏訪神社→⑩中里市民の森→湖北駅



## ⑦将門神社

祭神は平将門。旧日秀村の村社で石祠がある。940(天慶3)年に将門は戦没し、遺臣が将門の霊を携え、騎馬で手賀村明神下より手賀沼を渡り、丘の上で日の出を拝したのがこの地との伝承がある。

## ⑧相馬郡衛正倉跡(県立湖北特別支援学校内)

(敷地内は非公開)

旧石器時代から平安時代までの複合遺跡。住居跡は縄文時代8、弥生時代2、古墳時代188。建物跡は奈良・平安時代54棟。相馬郡の役所に付属する倉庫(正倉)と考えられる。土器、炭化米、和同開珎(銀銭)などが出土。県指定史跡。

